

## 経済学部

### 教育研究上の目的

本学部は、現代における内外の経済現象を正確に認識し、実践的に対応する能力を培うとともに、経済学・経営学及び商学の基礎学力と応用力とをバランスよく備えた専門的職業人の育成を目的とする。

### 教育目標

本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ、経済学部では、現代の経済社会に求められる問題解決能力を備える有為な人材を育成することを最終目標とします。

現代の経済社会は、グローバル経済の進展、資源エネルギー問題の深刻化、急速な少子高齢化の進行、国際商務ビジネスの変容、65歳定年制導入に伴う企業経営の根本的な変革など、内外ともに激動の時代を迎え、あらゆる経済主体が複雑かつ多様な課題を抱えています。

このような大変革の時代に対応するため、本学部では、少人数の長所を活かしたゼミナール及び学部独自の初年次専門教育とコース制専門教育を中核に展開しつつ、英語教育と情報教育を重視して、有為な人材としての基礎能力を十分に養成します。さらに、教養教育、キャリア教育を含む全学共通の基礎教育と有機的に連関させることにより、4年間の学習を通じて、コミュニケーション能力と自ら学ぶ力を涵養するとともに、経済現象を正確に認識して、それぞれの課題を見つけ出し解決できる人材を育成することを教育目標として定めます。

### ディプロマ・ポリシー

#### (学位授与の方針)

本学部のカリキュラムにおいて、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や資質を身につけていると判断し、学位が授与されます。

1. 経済学の専門的知識をもとに、日本及び世界の経済社会の現状を的確に理解し、かつ総合的に判断することのできる能力
2. 変化の激しい現代の経済・企業活動のなかで、時代状況に対応できる実践的かつ体系的な専門的知識と技能
3. グローバル化する世界経済や企業活動の中で、国際的な視野と国際化に対応できる知識や能力
4. 幅広い教養や専門的知識に基づき、現代社会の情報を収集し分析・考察し、課題を見つけ出し解決できる能力
5. 他者を理解し自らの意見も表現できる、社会人として基礎的なコミュニケーション力や社会に対し柔軟に対応できる豊かな人間性

### カリキュラム・ポリシー

#### (教育課程編成・実施の方針)

本学部では、現代の経済現象を正確に認識し、実践的に対応する能力を培い、経済学・経営学及び商学の基礎学力と応用力とをバランスよく備えた専門的職業人を育成するために、以下に示した方針で教育課程を編成しています。

1. 幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけることができるように、教養教育と語学教育を重要科目として位置づけカリキュラムを編成しています。
2. 大学教育への適応を容易にするため、初年次に「FYS (ファースト・イヤー・セミナー)」、「経済入門」、「経済情報処理」を設けています。
3. 学修に目的意識をもたせ進路を考えながら理解を深めるために、コース制を設けています。経済学科は、福祉・環境・公共政策を学ぶコース、市場・企業・産業を学ぶコース、国際経済と社会を学ぶコース、現代ビジネス学科では、貿易と国際ビジネスを学ぶコース、経営とマーケティングを学ぶコース、企業と会計を学ぶコース、それぞれ3つのコースを設けています。
4. 経済学的知識を段階的、体系的に学べるように、入門科目(学科基本科目)から応用科目(専門科目)へ適切に科目を配置しています。さらに専門的職業人の育成のために、応用的、実務的科目も充実させカリキュラムを編成しています。
5. コミュニケーション能力を養成するために、議論や論文作成等を行うゼミナールを2年次の第4セメスターから開始しています。
6. 国際化に対応できる専門能力や技能の向上を図るために国際関連科目を充実させています。さらに英語や情報科目には中・上級コースとして「インテンシブ・プログラム」を設置しています。